

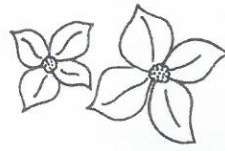


<教育・保育理念>
受容・信頼・貢献感

いきよう
からいっぱい
ちじま
ぶんらしく
まっすぐに



やまぼうし



社会福祉法人 市島福祉会
認定こども園 いちじまこども園

〒669-4321
兵庫県丹波市市島町上垣138-1
(☎) 0795-85-2330
(fax) 0795-85-2335
<http://www.ichijima-kodomoen.com>

こども園HP



保育者(大人)を
よく見えています。



こんなと見つけた♪

▲子どもが一番得意な事は
遊びを見つける事。
好きな場所やどうやって
遊ぶのか、場所や玩具を
よく見て自分なりに楽しんで
います。



▲絵本大好き！
絵本のすみずみまで子どもは見えています。
その発見や気づきにも寄り添いながら絵本を読みます。

小さな変化を
見逃さず
じっと見ると…



▲ヤマモモの実を発見！
もう少しで手が届きそう～！

▲春・秋の自然教室では小さな発見がたくさん！

こどもが毎日見ているもの、聞こえる音、触れるもの、味わうもの、匂い、感じる雰囲気、それらがその子を育てるすべてです。まわりの大人の言動、一挙手一投足もすべて吸収して、できるかもしれない。子どもたちのこれからの成長にふさわしい言葉遣いや表情、行動が線の前には何があるのか、何に興味を持っているのか、どこにおもしろさを感じたのかを常に理解しようとする事で、その子の気持ちや思いに気づく事ができ、気持ちに寄り添ったり、成長の手助けができたりするのだと思っています。

子どもは見ている聞いている

倉橋惣三の言葉



額に汗するという言葉は、大人の
実生活に於いて、勤労を礼讃する
言葉である。

子どもの遊戯生活が大人の実生
活と同じ貴さをもつとすれば、子
どもの汗も同じ貴さをもつもので
ある。

汗の出る程遊ばない子、遊べない
子、汗の出ないように静かにばか
り座らせられている子、汗を出す
と叱られる子、どれも礼讃に値す
る子どもの生活といえない。

どの子どもにも、存分に汗するほ
どの生活をさせてやらなければな
らない。

「育ての心」より

倉橋惣三(1882-1955)

「日本のフレール」あるいは「日本の幼児教育の父」と呼ばれる幼児教育学者。倉橋が展開した子どもの心に徹底的に寄り添い、子どもの遊びや自発性を重視した幼児教育論は、まさしく現代に通じるもの。誘導保育論が特に有名である。